

授業概要

本講義では、中学校社会科及び高等学校公民科教育に関する理論的・実践的な課題について検討し、それを踏まえて自らの社会科・公民教育の教育観・授業観（理想の社会像や市民像）を再構成することを目的とする。具体的には、社会科と公民教育、道徳教育との関係性、学習指導要領と公民教育との関連性、様々な社会科授業観や授業設計の具体について講義し、自らの社会科・公民教育の教育観・授業観（理想の社会像や市民像）を再構成していく。また、ミニレポート課題として、ブックレポート及び公民教材の発掘・紹介をしてもらう。社会科・公民教育では、構想したい社会像や育てたい市民像（公民的資質）が問われることになる。本講義を通して、それがより多くの市民を包摂する社会となることを願いたい。

授業計画

第 1 回	社会科と公民教育——あなたの理想の社会像や市民像とは？
第 2 回	公民教育と道徳教育の関係性——これまでの被教育体験の「公民教育」化（ふりかえり①）
第 3 回	学習指導要領の変遷と社会科授業——制度学習の限界性
第 4 回	新学習指導要領と小中高のカリキュラム構造——中学校社会科・「公共」の役割
第 5 回	中学校社会科と公共の接続①——主権者教育の課題
第 6 回	中学校社会科と公共の接続②——「見方・考え方」とその役割
第 7 回	さまざまな社会科授業のカタチ①——「議論」学習のつくり方
第 8 回	さまざまな社会科授業のカタチ②——「合意形成」と留保条件
第 9 回	さまざまな社会科授業のカタチ③——「社会参画」
第 10 回	さまざまな社会科授業のカタチ④——「外部連携」とカリキュラムマネジメント
第 11 回	市民性教育としての防災教育——シミュレーション学習を事例として
第 12 回	市民性教育としての地域・社会問題学習①対象地域の決定と教材研究
第 13 回	市民性教育としての地域・社会問題学習②単元プランの構想
第 14 回	公民教育に関する教育方法と教師の役割の転換——哲学対話の重要性
第 15 回	公民教育の展望——私たちが目指す理想の社会像や市民像とは？（ふりかえり②）
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・公民教育やカリキュラムの歴史的な変遷を踏まえて、その社会像や市民像について説明することができる。
- ・公民教育に関する理論的・実践的な課題の検討を踏まえて、自らの社会科・公民教育の教育観・授業観（理想の社会像と市民像）を構成し、説明することができる。
- ・特定の条件下で、公民教材を発掘し、他者にわかりやすく紹介することができる。

履修上の注意

本講義は、中学校社会科及び高等学校公民科に関する教育法である。
 なお、教材発掘をはじめとして、大学の教室外で調査をすることも考慮しておくこと。

予習・復習

講義の中で紹介する関連文献や論文を読み、また生徒が関心をもちそうな教材を発見・紹介しながら、見識を深めることを期待します。また、ミニレポート課題の詳細については、授業の中で示します。

評価方法

- ・筆記試験：40%
- ・ミニレポート、単元プラン：30%
- ・ふりかえりシート、コメントペーパー：30%

テキスト

テキスト：『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』文部科学省（2018）東洋館出版社。
 『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 公民編』文部科学省（2019）東京書籍。
 参考文献：橋本康弘（2018）『高校社会「公共」の授業を創る』明治図書。
 渡部竜也（2019）『主権者教育論——学校カリキュラム・学力・教師』春風社。
 日本公民教育学会（2019）『新版テキストブック公民教育』第一学習社。
 社会認識教育学会（2020）『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版社。